The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本の空間の特質と私の家具デザイン
Author(s)	村上, 太佳子
Citation	デザイン理論. 2001, 40, p. 82-83
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53160
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日本の空間の特質と私の家具デザイン

村上太佳子／鳥取環境大学

日本の空間の特質

現代の日本の空間に西洋家具をいかに取り入れるかは未だにその解決を見ていないと思われます。インテリアデザイン，建築デザインの側からも，家具デザインの側からも今日の日本人の生活様式を確立し得たとは言えないと思われるのです。そのような視点から日本の空間の質と様式と家具デザインはどうあるべきかが私の家具デザインのコンセプトとなりました。日本の空間は古来から自然環境と共に，自然に逆らわずに作られてきました。建築と自然を切り離し，強固な構築物を建てるヨーロッパとは異なり，自然と共に柱を立て，屋根を葺けば十分であり，自然のあらゆる所に神が住むように家の中にも神々が住む空間でした。必然的に解放空間が基本になり，融通のつく空間が生まれたと言えましょう。このような空間は，自然と人間との，また内部と外部に強固な境界を持たない空間となります。このような空間は日本の特質空間と言えましょう。これはさらに進めて言えば，内と外とがはっきり区切られていない透明で，等質な空間が成立したと言えるでしょう。透明で内，外が等質であるということは，そこに空気の流れる澱みのない空間があり，人間と自然を分離しない生活空間を作り出すことになると思われます。適当に視線を遮りつつ，空気の流れてゆく空間，内から外へ，外から内へと，等質で切れない空間を日本人は作り上げたと言えましょう。透けつつ流れる空間は，また，独自の陰影を空間に与えます。外と切らないために生まれた深い軒は，空間に独自の陰影をもたらしたと言えましょう。この陰影は，谷崎の陰影礼賛でも知られるように，反射光により作られる陰にあります。日本の伝統文化の光は，太陽光ではなく月光なのです。雨の多い自然が必然的に屋根の形，勾配の大きい屋根と深い軒をを作り，室内に陰，暗さを生み，庭からはいる反射光に感性をとぎすまし，和紙という優れた素材からの透過光を愛し，畳という素材の持つ明るさとさわやかさを好み，杉天井のほの暗さの中に沈み込む生活様式を作り上げたと言えます。闇の中では，特別に触覚が鋭くなります。日本人は素材の質感を非常に大切にするといえます。空間を構成する素材の種類は少ないのですが，土という素材だけを見ても，デリケートな表現から荒々しい表現まで千差万別で，数限りない表現方法があります。それらすべてが，視覚と触覚に微妙な働きかけをしつつ空間の質を創造してゆくのです。陰は湿度を生み，坪庭の明るさは乾きを生み，そこに温度差から生じる細やかな風の流れが生まれ，その微細な空気の変化を日本人は感じ取る感性を育て，日本の空間を豊かなものにし，また豊かに感じて来たのです。

日本人の感性

日本の自然や空間に育てられてきた感性は，他と比べて独自のものを持つように思えます。特に，室内空間を考えるとき，裸足での生活と床座生活がもたらした感性は非常に特質的であると思います。日本人が持つ季に対する感性は，前述のような身体のあり方にも大きく育てられたと思います。生活様式を季節の移り変わりと共に変化させることで，住まう

こと，食事，着物等生活全般に変化を与え，楽しみ方を知っています。季節が生活の多くの部分を規定してきました。季節を室内に取り込み，空気，湿度，温度，風，香り，音，などの自然の素材を空間の素材として室内をつくり，またその中で裸足で生活することで，身体を通して空間を感じ，理解する感性を育て上げました。このような感性と，生活の様式をささえるためには家具と空間のあり方が重要で，また難しいものとなります。

日本の室内と家具のかかわり

伝統的に日本の室内での生活は，ほとんど家具を使わない空間生活をしてきました。空間と家具の結びつきは一時的なもので，いつでも消し去れる性格を持っています。空間に人が入り，そこで何をするかで必要な家具が持ち込まれて，部屋の機能が決まります。西洋の様に空間自体が機能を持って作られ，家具もその機能を完全なものにするために作られ，置かれるといったことはありません。たとえば，手紙を書こうとすれば，そこに文机がおかれ，紙，硯が置かれて書斎となり，客が来れば，坐布団が置かれて応接室となるのが日本の室内です。このように日本の家具は動かしやすい道具としてあり続けて来たので，日本の空間の美しさや，畳の生活の心地よさをそこなわなかったのだと思います。何も置かれていない空間が美しく，完成度が高い日本の空間に裸足で生活し，そのことで身体感覚を鋭くし，家具が置かれていない方が気持ちがいい室内，これが日本の室内条件です。これが椅子のデザインを難しいものにしてきているのです。

私の椅子デザインのコンセプト

このように日本の空間の特質や生活の様式や，日本人の感性について考えてきたのは，やはり，自分のデザインが本来の日本の空間の美しさを損なうことなく，また日本人としての身体感覚を大切にしたいと思うからに他なりません。前述のとおり，日本の空間，建築は，柱，梁で躯体が作られ，屋根が葺かれ，土壁が塗られ，床が張られ，畳が敷き詰められ，障子や襖がたてられると完成してしまいます。インテリアデザインを含んだすべての建築が完全に完成し，最高に美しく見えます。建築空間を完成させるために家具は必要にはなりません。このような空間のための椅子はどうあるべきかが私のデザインテーマになりました。日本の空間と家具の関係は空間を常にもとに戻せるような，変化に対応できるものでなければなりません。家具がそのような性格を持つと言うことは，家具がその空間の機能の変化に対していつでも変化できるように作られるということになります。そのような家具は，常に空間と同質の優れた美を求められ，必要のない時には消え去ることが出来るものでなければなりません。現在の日本の生活空間は椅子生活が日常となっていると同時に，空間の質が，本来の日本の空間と様式が持つ美しさとはかけ離れた貧しいものとなっていると考えるからにほかなりません。また，椅子とゆう道具なしに生活できる身体ではないことも事実です。伝統的よい日本の空間を残し，かつ生活を現代人の身体条件に合わせるために，日本の空間のための低座椅子をデザインする事が必要ではないかと思ってきました。日本の伝統空間のもつ本質に対して，同質のものであること，素材，単純さ，構成の美しさ，そして，必要でないときはいつでも簡単に片づけられ消え去ることの出来るもの。日本の空間を美しくつかいこなすために，低い視線で生活できることなどです。